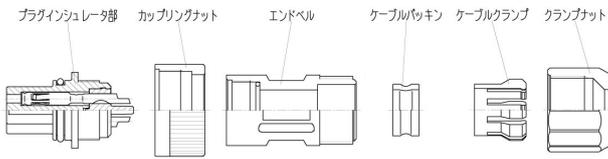


# 結線作業方法【はんだ】PLW

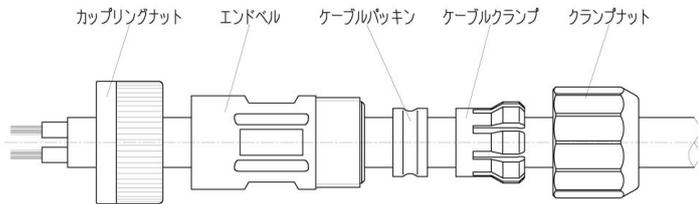
※結線部に強い力が加わるような使い方は避けて下さい。  
クランプナットを締め付けた際にケーブルパッキン内径部との密着性を損なわない構造のケーブルを選定して下さい。

## 1. 構成図の通りコネクタを分解する。

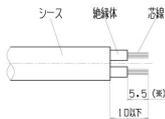


## 2. 分解した各部品を図の順でケーブルに通す。 (予備装着)

注) 各部品の順番、向きを間違えないようにすること。  
(ケーブルパッキンに向きはありません。)



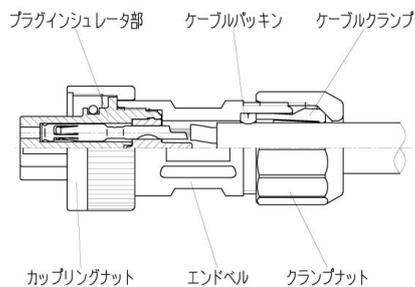
## 3. 使用ケーブルのシース及び電線を下記の寸法で剥く。



## 6. 下記の要領でコネクタを組み立てる。

注) ※断線するおそれがあるのでバレルを回転させて締め付けないこと。締め付けのトルク値は下の表を参照。  
※パッキン類に汚れが付着すると防水性に影響があることがあるので、きれいな状態で作業すること。  
※ケーブルパッキンをエンドベルに押し込む際は、ケーブルに傷を付けない様に慎重に行うこと。

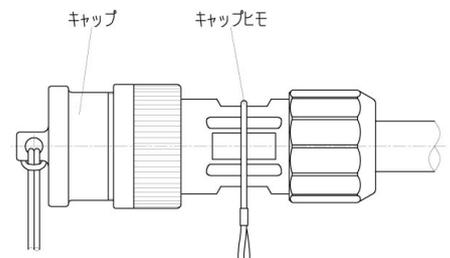
- ① プラグインシュレータ部を固定し、カップリングナットを装着した上でエンドベルを締め付ける。
- ② エンドベル内にケーブルパッキン、ケーブルクランプを組み込む。
- ③ エンドベルを固定してクランプナットを締め付ける。  
(1分間に1回転以下の速度でねじ込むこと)



### ◎キャップの装着について

キャップを使用する場合は、予備装着時にあらかじめキャップのヒモをエンドベルに通しておくこと。

注) エンドベル〜クランプナットのネジ部にキャップのヒモがかみ込まない様に注意すること。



## 4. 線剥きを施した電線の芯線に予備はんだを施す。

注) ※予備はんだは、電線の被覆部まで行わないこと。

仕上がり状態は、コンタクトの孔径より小さく全体にムラのないこと。

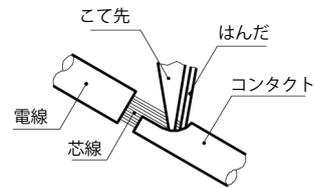
※予備はんだを施したケーブル導体の仕上がり状態がコンタクトの孔径より大きくなる場合は、ケーブル導体がコンタクトに差し込めなくなるので予備はんだは行わないこと。

## 5. はんだづけを行う。

注) コンタクトへの過度の加熱はしないこと。

使用はんだごては下の表を参照。

- ① コンタクトのソルダーポットに芯線を差し込む。
- ② 図の様にはんだごてで加熱しながらはんだを流し込み、コンタクトと芯線の隙間を埋める。



使用はんだごて	電線導体断面積 (mm <sup>2</sup> )	こて先温度 (°C)
10W	0.5, 0.75	280 ~ 300

こて先温度は共晶はんだでの参考値

[単位: N・m]

締め付け箇所	シェルサイズ
	14
プラグインシュレータ部-エンドベル	0.8 ~ 1.0
エンドベル-クランプナット	0.8 ~ 1.0